

## ALCA-Next 2025年度 研究開発提案募集FAQ

No	カテゴリ	質問内容	回答
1	制度全般	応募の準備にあたって不明な点がある場合に個別にご相談をさせていただくことはできますか。	応募に関してご質問がございました場合は、電子メールでお問い合わせをお願いします。なお、公平性の観点からも、ご提案内容に関する個別の事前相談には対応できないこととなっておりますので、ご提案者様それぞれのご提案内容に沿った形のご検討および作成をお願いします。
2	制度全般	英語版の募集要項と提案書様式は公開されるのでしょうか。また、提案書を英語で作成してもよいでしょうか。	後日、英語版の募集要項と提案書様式を公募ページに掲載予定です。提案書は英語で作成してもかまいません。ただし、採択された場合は、日本語対応のみとなる書類(契約書、計画書・成果報告システムなど)があります。採択後は、各種様式の準備のため、日本語がわかる方を補佐としていただきたく、予めお願いいたします。
3	制度全般	応募に際しては、機関承認が必要でしょうか。	承諾書の提出やe-Radでの機関承認等は不要です。ただし、研究機関に求められる責務が果たせない研究機関における研究実施は認められませんので、採択された場合、研究実施を予定している研究機関の事前承諾を得てください。
4	制度全般	提案書等の応募情報は、どのように取り扱われますか。	ALCA-NextのPO、領域アドバイザー、外部専門家、GteXのPO等、守秘義務を負っている者のみで応募情報・選考情報を取り扱います。JSTは、応募情報の適切な管理のために必要な措置を講じます。
5	制度全般	e-Radの研究者番号の取得が必要となるのはどの範囲ですか。e-Radの研究者番号は研究代表者のみが保有していればよいですか。	e-Radの研究者番号は、研究開発代表者だけでなく、主たる共同研究者も必要です。登録方法は、募集要項をご確認ください。
6	制度全般	CREST、A-STEPとの重複応募の取り扱いについて教えてください。	重複応募制限はございませんが、採択時には「不合理な重複や過度の集中」の観点から調整を行う可能性があります。
7	制度全般	面接は対面で実施される予定でしょうか。それとも、オンラインでしょうか。	ALCA-Nextの公募ページ上に、面接選考の日付と形式が掲載されていますのでご確認ください。
8	制度全般	主たる共同研究者とは、どのような位置づけの人を指しますか。	共同研究グループを代表する研究者を指し、JSTは主たる共同研究者が所属する大学等、企業等の研究機関と委託研究契約を締結します。
9	制度全般	共同研究グループを形成する場合、複数の研究開発機関の研究者で1つの共同研究グループを構成することはできますか。	可能ですが、共同研究グループを代表する研究開発機関のみJSTは委託研究契約を締結します。委託研究契約を締結した研究開発機関のみが研究開発費の執行が可能です。研究開発費を執行する場合には、別の共同研究グループとして委託研究契約を締結してください。
10	制度全般	企業と大学で共同で応募することは可能でしょうか。	可能です。企業が共同研究グループとして加わることもできず、代表となることもできます。
11	制度全般	1人で応募することはできますか。その場合は1グループのチームとして提案書を作成すればよいですか。	個人で応募することは可能です。その場合は、1グループのチームとしてください。
12	制度全般	申請の段階で、民間企業の研究者はeAPRIN未修了の場合、申請できるでしょうか。	研究開発代表者は、所属先に関わらず、研究倫理教育に関するプログラムを修了していることが応募要件となります。研究倫理教育に関するプログラムの一つにeAPRINがあり、eAPRINダイジェスト版を受講いただければ応募いただけます。また、2024年4月よりJST 委託研究事業参画者に義務付ける研究倫理教育プログラムの拡充がされたので、対象となる研究倫理教育プログラムかどうかは、JST研究倫理ホームページをご参照ください。なお、主たる共同研究者・研究開発参加者については、採択後に研究倫理教育に関するプログラムを受講いただければ問題ありません。 <a href="https://www.jst.go.jp/researchintegrity/education.html">https://www.jst.go.jp/researchintegrity/education.html</a>
13	制度全般	カーボンニュートラルへの貢献が掲げられていますが、CO2以外の温室効果ガス削減に着目した研究テーマは、プログラム趣旨に合致しますか。	二酸化炭素以外の温室効果ガスも対象とします。地球温暖化の抑制に貢献する提案を期待します。
14	制度全般	CO2削減の数値目標は必要ですか。	数値目標は必須ではありませんが、可能な限り科学的根拠に基づいた定量的な目標を記載ください。
15	制度全般	ボトルネック課題と同じような研究課題を提案しても問題ないでしょうか。	問題ありません。
16	制度全般	研究提案が複数のカテゴリにまたがる場合、提案先技術領域としては一つに絞る必要があると思いますが、研究発展性の観点から提案書内には複数のカテゴリに該当することを明示してもよいでしょうか。	技術領域は一つに絞っていただく必要がありますが、複数のカテゴリを明示いただくのは構いません。提案書様式1-1(FS課題はFS 様式1)の「提案先技術領域」には、最も合致すると思われるカテゴリの一つを記載し、それ以外のカテゴリは、様式8(FS課題はFS 様式8)の「その他特記事項」に記載ください。
17	制度全般	10年後、20年後に役立つような研究でも提案可能でしょうか。	提案可能ですが、ALCA-Nextでは、原則研究開始後4年次目にステージゲート評価があります。ステージゲート評価では、研究の質・量およびカーボンニュートラル実現にどの程度貢献するかという評価がなされるので、その点についてご承知おきください。
18	制度全般	企業の研究者が研究開発参加者として参画する場合、JST-企業との間に契約が必要となりますか。	当該企業が予算配分を受け、予算の執行を行う場合には、JSTとの委託研究契約が必要となります。
19	制度全般	企業研究者が研究担当者(研究開発代表者・主たる共同研究者)として応募する場合も、その研究者の件費は直接経費の計上対象に含まれないのでしょうか。募集要項に「研究開発参加者(但し、研究担当者を除く)の件費・謝金」と記載されているため。	原則として、研究担当者の件費を直接経費から支出することはできません。ただし、複数の条件を満たす場合にのみ「PI件費」として支出が可能となりますので、募集要項等の記載をご確認ください。
20	制度全般	採択後に、研究開発代表者・主たる共同研究者の所属が変わった場合はどうなりますか。	異動先の機関・部署とJSTとで、委託研究契約を結び直す(変更契約すること)になります。なお、異動先の機関も、募集要項記載の機関の要件を満たしていただく必要があります。
21	制度全般	スモールフェーズは1年から4年とありますが、短くなる可能性はありますか。	原則、全課題同じ時期にステージゲート審査を想定しております。原則からはいずれもスモールフェーズが短くなるかはケースバイケースですので、現時点でお答えいたしかねます。
22	制度全般	ステージゲートの通過基準はどのようなものですか。	募集要項「3.4 評価」にステージゲートの評価基準に沿って評価を行います。
23	制度全般	企業と共同研究を行った場合、知的財産はどのような扱いになりますか。大学-企業のみで出願・登録することは可能ですか。	知的財産は、委託研究契約に基づき、原則として発明者の所属機関に帰属します。JSTへは状況を報告していただけますが、知的財産の取得・活用については、機関にて適切に進めてください。
24	制度全般	来年以降も提案募集はありますか。今回の募集テーマで継続して募集を行うなど予定は決まっていますか。	各年度の政府予算の成立状況によりますので、現時点では未定です。
25	エネルギー変換・蓄エネルギー	GteX水素領域の募集がありませんが、水電解や燃料電池に関するテーマは提案可能ですか。	チーム型での研究を実施するような規模・研究フェーズにはないものの、既存の性能を大きく超える革新的な要素技術についてはALCA-Nextの募集対象となりますので、「エネルギー変換・蓄エネルギー」領域の「b. 省エネルギー・低コストな水素エネルギーキャリアの合成・利用技術」にご応募ください。
26	エネルギー変換・蓄エネルギー	水素エネルギーキャリアの直接利用技術として、アンモニアの燃料利用は対象となりますか。	対象となります。カーボンニュートラルの実現に貢献し得る、科学技術パラダイムを大きく転換するゲームチェンジングテクノロジーを創出するご提案を幅広く募集しております。
27	エネルギー変換・蓄エネルギー	効率的なCO2回収技術の開発に集中した提案もOKでしょうか。	高効率・省エネルギーで二酸化炭素を回収可能なご提案をお待ちしております。
28	エネルギー変換・蓄エネルギー	水素エネルギーキャリアとしてのアンモニアの貯蔵技術は対象となりますか。	カーボンニュートラルの実現に貢献できるということであれば、対象となります。
29	エネルギー変換・蓄エネルギー	将来の社会実装を考えると、システム全体のコスト低減の見込みが最重要になると思われますが、提案時点でどの程度正確に見積もる必要があるでしょうか。	システムやプロセス全体のコスト低減の見積もりは非常に難しいですが、提案書に可能な限り記載ください。採択された場合、調査や領域アドバイザー等との議論の中でコスト見積もりの精度を上げていくことが可能と考えています。
30	資源循環	バイオマスの活用は、「資源循環」領域に提案すべきでしょうか。それとも、「グリーンバイオテクノロジー」領域のどちらに提案すべきでしょうか。	「資源循環」領域では、バイオマスを原料とした、化成品などの合成手法や性能向上などの化学的な検討を中心に扱います。一方、「グリーンバイオテクノロジー」領域では、高収量・低環境負荷の実現や、植物機能の最大化など、バイオマスそのものを対象とした研究を扱う想定です。募集要項をよくご確認の上、より合致していると思われる領域への応募をお願いいたします。
31	資源循環	バイオマスの生物学的な利用は対象外とありましたが、生物学的利用というのはどういうことでしょうか。	バイオマスの生物学的な利用については、「グリーンバイオテクノロジー」領域の対象となります。「資源循環」領域では化学的利用の提案を募集しているため、どちらの領域により合致しているかをご検討の上ご提案をお願いいたします。
32	資源循環	生物を利用した温室効果ガスを回収分離、利用するプロセスの開発は「資源循環」領域の対象になるでしょうか。「グリーンバイオテクノロジー」領域とのオーバーラップはどのように判断されるでしょうか。	「資源循環」領域では、バイオマスを原料とした、化成品などの合成手法や性能向上などの化学的な検討を中心に扱います。一方、「グリーンバイオテクノロジー」領域では、高収量・低環境負荷の実現や、植物機能の最大化など、バイオマスそのものを対象とした研究を扱う想定です。
33	資源循環	「貴金属の再利用」の貴金属の中で、特に重要で望まれる金属は何と考えられていますか。	資源の効率的な循環利用を低環境負荷で可能とし、温室効果ガス排出量の削減に大きく貢献するという観点等で、ご提案者様ご自身で対象とする金属をご検討ください。
34	資源循環	バイオマスの炭化による生成物づくりは「資源循環」領域の対象となりますか。	非可食性バイオマスを原料とし、温室効果ガス排出量の削減に大きく貢献する、科学技術パラダイムを大きく転換するゲームチェンジングテクノロジーを創出するご提案を幅広く募集しております。
35	資源循環	3Dプリンティング技術は金属資源の循環利用プロセスと捉えられるでしょうか。	資源の効率的な循環利用を低環境負荷で可能とし、温室効果ガス排出量の削減に大きく貢献する技術は「資源循環」領域の対象となります。
36	資源循環	都市鉱山といわれるような、廃棄物からの金属再生も「資源循環」領域に含まれるでしょうか。	資源の効率的な循環利用を低環境負荷で可能とし、温室効果ガス排出量の削減に大きく貢献する技術は「資源循環」領域の対象となります。産業廃棄物などの再資源化技術も含まれます。

No	カテゴリ	質問内容	回答
37	資源循環	製品や部品のリサイクルも「資源循環」領域に含まれるでしょうか。	単なる再利用のための技術開発ではなく、部品も含めて原料や材料といった資源の効率的な循環利用を低環境負荷で可能とする技術は「資源循環」領域の対象となります。
38	資源循環	生分解プラスチックや環境で分解するプラスチックという研究も「資源循環」領域に含まれるでしょうか。	分解した後に再原料化等により大幅な温室効果ガスの削減ができる、循環型プラスチックであれば「資源循環」領域の対象となります。
39	資源循環	一般的にバイオ燃料と言われるものの研究開発については「資源循環」領域として応募可能でしょうか。	「資源循環」領域ではエネルギーフローやマテリアルフローの観点から、提案される技術の利用プロセス全体を通して温室効果ガス排出量削減へ貢献できることを前提としておりますので、そのような観点から応募をご検討ください。
40	グリーンバイオテクノロジー	CO2以外の温室効果ガスも研究開発対象となりますか。	カーボンニュートラルの実現を目標とするため、例えばNO2、メタンなどの温室効果をもつガスの排出量削減に貢献する課題も対象となります。
41	グリーンバイオテクノロジー	バイオものづくりに関する研究開発も対象となりますか。	微生物等を用いたものづくりであれば対象となります。
42	グリーンバイオテクノロジー	生物系研究と物理、化学、情報科学など異分野の研究との連携・融合による新しい研究開発について、事例を教えてください。	例えば、生物系研究でおこなわれる品種開発を異分野技術との融合によって問題解決を目指すものです。具体的には、これまでの発想にない物理的な遺伝子導入方法の開発、植物には存在しない人工分子を用いた生育のコントロール、分析機器やセンサーなど用いた表現型の予測による育種効率の最大化など、様々な提案に期待します。
43	グリーンバイオテクノロジー	領域の対象とする技術イメージの図で水圏でのCO2吸収・固定化が示されていますが、開発対象はどのようなものを想定されていますか。	沿岸や水中の生物圏で高いCO2の吸収・固定化能をもつ微細藻類から大型藻類を開発対象と考えています。
44	グリーンバイオテクノロジー	複合微生物系の構造・機能の革新的な分析・解析・制御技術の項目に関するボトルネック課題で、複合物系を微生物・植物から動物にも広げるとありますが、対象と研究内容を少し具体的に教えてください。例えば、昆虫を用いた研究開発も応募可能でしょうか。	微生物が代謝しにくい高分子有機化合物などを分解可能な土壌動物(例:ミミズ類、線虫類など)を想定しています。例えば、微生物・植物だけでなく、土壌動物を含めた相互作用因子の分析・機能解析に基づく革新的な技術開発の提案などに期待します。昆虫に関しても土壌動物同様に研究開発の対象となります。
45	グリーンバイオテクノロジー	ALCA-Nextの運営体制は、GteXと一体的な運営をおこなうとありますが、「グリーンバイオテクノロジー」領域ではどのような運営がおこなわれるのでしょうか。	ALCA-Nextは、GteXと比較して、もう少し基礎よりの研究開発を想定しています。GteX、ALCA-Nextに関して、「グリーンバイオテクノロジー」領域では、シンポジウムのような情報共有、意見交換機会の計画を想定しています。また、GteXバイオものづくり領域で管理する施設・機器を共有して利用できる仕組みも検討し、これらを通して課題の加速化・高度化などを想定しています。一方で、GteX課題との統合により、GteX課題の加速化などのシナジー効果があると想定されるALCA-Next課題については、GteXへの編入も検討します。
46	半導体	比較的低電力容量のパワー半導体、その制御回路などは今回の募集範囲に含まれないのでしょうか。	含まれます。
47	半導体	ロジック向けの半導体材料として極薄膜層状材料が挙げられていましたが、具体的に想定されている材料があれば教えてください。	特に想定はありません。新規材料や新しい提案を歓迎します。
48	半導体	半導体の領域で3次元トランジスタやメモリの開発が例示されていましたが、ロジックチップとメモリチップのチップレット集積化は対象になるでしょうか。	対象となります。
49	半導体	革新的コンピューティングアーキテクチャのための半導体設計ツールやソフトウェアの研究開発は対象に含まれるでしょうか。	対象に含まれます。
50	半導体	不揮発メモリーで想定する階層はありますか。	特にございません。エッジコンピューティングのオンチップからストレージまで様々な階層でご提案ください。
51	半導体	パワー半導体用基板技術はカテゴリーe(新発想)に含まれますか。	まずは、カテゴリーd(電力変換素子・回路・制御技術)で提案してください。検討した結果、カテゴリーを移動する場合がありますが、それにより提案者が不利益になることはありません。
52	グリーンコンピューティング・DX	非フォンノイマン型を例示されていましたが、通常のGPU向けのアーキテクチャーに関しては対象とならないのでしょうか。	対象となります。
53	グリーンコンピューティング・DX	情報学的な「グリーンコンピューティング」の技術ではあるものの、「半導体」へ実装した場合に大きな効果があるような技術に関しては、どちらの領域に応募すべきでしょうか。	提案者のご判断を尊重しますが、内容を見て領域を移動することはあります。、それにより提案者が不利益になることはありません。
54	グリーンコンピューティング・DX	今回の募集領域は非フォン・ノイマン型とのことですが、フォン・ノイマン型における革新的な技術は、申請可能でしょうか。	フォン・ノイマン型で革新的な提案があればご応募ください。カーボンニュートラル実現に向けた新たな発想に基づく提案として審査します。
55	グリーンコンピューティング・DX	「グリーンコンピューティング・DX」領域で、エネルギーマネージメントを出口とした研究を提案する場合、どのような点がポイントとなりますでしょうか。	エネルギーマネージメントに限らず、期待される効果とアプローチの新しさが評価軸になります。すなわち、カーボンニュートラルへの貢献度と世界のベンチマークと比較した時の卓越度です。
56	グリーンコンピューティング・DX	「グリーンコンピューティング・DX」領域は、ハードウェアやシステムアーキテクチャーの研究課題が主眼になるでしょうか。アプリケーション開発技術やシステムソフトウェアは対象に入るでしょうか。	対象に入ります。